



## タンザニア

# BOP層実態調査レポート

- 調査実施日：2013年1月
  - 調査場所：ダルエスサラーム市、バガモヨ
  - 訪問場所：畜産・水産省（水産部門）、タンザニア水産研究所、ダルエスサラーム魚市場、バガモヨの水揚げ場
- \*タンザニアシリング（Tsh）換算レート 1Tsh＝約18円（2012年12月）

タンザニアの水産業は畜産・水産省の水産部門（Fisheries Development Division）が統括している。沿岸や湖畔の水揚げ場では管轄の州政府の水産担当官（Fisheries officer）が、それぞれの水揚げ場に設けられたBMU（Beach Management Unit）と呼ばれる組合と協力し、運営・管理・監視を行っている。漁業は登録制になっており、管轄の水産担当官に登録申請をしてライセンスを取得する必要がある。

タンザニア水産研究所（Tanzania Fisheries Research Institute）という公立の水産研究機関が、政府から水産業に関する基礎研究を委託されており、環境や種の保存の観点からの提言を行っている。また海外の研究機関による国内の研究プロジェクトを共同で行っている。



ビクトリア湖	609カ所	240,255トン
インド洋	257カ所	50,592トン
タンガニーカ湖	239カ所	31,568トン
ニヤサ湖	114カ所	11,304トン
ルクワ湖	50カ所	4,196トン
ムテラダム	27カ所	743トン
ニュンバヤムングダム	21カ所	992トン
その他（小規模な湖やダム、河川など）	18カ所	1,411トン

### 水揚げ高

2011年の水揚げ高は347,157トン、Tsh1,198億8821万（約67億円）であり、GDP全体に対する水産業の占める割合は1.6%となっている。

漁場は大きく8つに分けることができ、水揚げ場の数と水揚げ高は左表の通りである。水揚げ高の淡水・海水の内訳は淡水85%・海水15%となっており、淡水の中でもビクトリア湖が占める割合は69.2%と圧倒的に高くなっている。



## 輸出入

2011年の水産物・水産加工物の輸出は37,996トン、Tsh2,337億1,459万(約13億円)である。淡水・海水の内訳は淡水95%・海水5%であり、ビクトリア湖産品の輸出は33,554トンで全体の88.3%に当たる。ナイルパーチの輸出が25,426トンであることから輸出の約67%はナイルパーチとなっている。

大規模な水産物加工工場はほぼビクトリア湖周辺にある。一日当たりの加工量が10トン以上の工場は10社あり、内9社がビクトリア湖湖畔でナイルパーチの加工を行っている。1社がダルエスサラームにあるが、主にカニ・エビ・タコ・イカなどを扱っている。

2011年の水産物・水産加工物の輸入は2,659トンで60%強がインド洋サバである。イエメンからの輸入が多く、その他中国・韓国・インド・日本からも輸入している。タンザニア一人当たりの年間魚介類の消費量は7.7kgとなっている。

(参考: Ministry of Livestock and Fisheries Development, Annual Statistic Report 2011)



ムワンザ空港外で売られているナイルパーチ

## ダルエスサラーム魚市場

ダルエスサラーム街中の海辺、対岸キガンボニ行きフェリー乗り場のすぐそばに魚市場がある。それまでにあった魚市場の給排水施設、水揚げ制度の不備、衛生状況の改善などのため、日本のODAによって2002年に屋根付きの整備された魚市場が完成した。漁に出た船が直接市場に接岸できるようになっており、朝6時から暗くなる午後6時頃まで、漁師、販売人、仲買人、購買人などで大変にぎわう。セリも1日に何度か、大きめの魚と小さめの魚が別々の台座の上で行われている。屋根のある市場が大きな面積を占め、新鮮な魚を中心に売られているが、その周辺でも鮮魚や冷凍、冷蔵保存魚の小売り、卸売りが行われている。中央には2階建ての管理事務所もある。氷を使った冷蔵保存のための保冷箱やコンテナなども並んでいる。道路を挟んで専用の駐車場があり、その傍らには野菜市場や食堂などもある。

屋根のある小売り市場での販売するために、一区画につき一月330円を管理事務所に支払う。魚のうろこを落とし、切り身にするような仕事を得ている人々もいて、彼らは魚市場で仕事にありつくために、1日に2.8円支払っているようだ。

魚の種類は非常に多く、小魚、小エビから、大きなマグロに至るまで販売している。小エビを揚げるなど加工して販売している者もいる。自分で魚を揚げて売るために、小さな魚をまとめ買いにきている女性たちも多い。

また、海外からの冷凍魚も販売されており、ポルトガルからのレッドフィッシュの他、イエメン、中国産のものも見かけた。

ビクトリア湖畔のムワンザにも日本のODAによって、2005年に屋根のあるキルンバ魚市場が完成した。



ダルエスサラーム 魚市場



漁業資機材

漁船の数はビクトリア湖26,983艘、タンガニーカ湖11,506艘、インド洋7,664艘、その他で合計55,229艘が登録されている。漁船は大きく分けてMASHUAと呼ばれる20人乗り程度の漁船、DAUと呼ばれる5人乗り程度の漁船、NGALAWAと呼ばれる1人乗りの漁船に分けられる。



MASHUA



NGALAWA (一人乗りカヌー)

エンジンは合計で9,946機あり、内9,850機が船外機となっている。



船外機  
YAMAHA60HP

	YAMAHA製		MERCURY製
5HP	約17万円／NGALAWAで使用	5HP	約8万円
15HP	約28万円／DAUで使用	25HP	約22万円
40HP	約39万円／MASHUAで使用	40HP	約33万円

釣り針は大きさごとに1箱100個入りで約770円から約2,500円で売られている。

ネットは3インチのメッシュで縦2.5m横45mのサイズが強度別で約220円から約660円で売られている。(ネットのサイズ、メッシュのサイズで売値は異なってくる)

釣り糸は100mが1ダースで強度別で売られている。



網の手入れをする漁師



#### 訪問調査～バガモヨ～

ダルエスより北に1時間ほどの漁師町バガモヨを訪問した。水揚げ場所・朝の市場の様子を見学し、水産担当官とMASHUA所有の漁師2人とDAU所有の漁師1人に話を聞いた。漁船は基本的に漁師個人が所有している。個人が所有している漁船を漁船だけ貸すことはほぼないという、船を使用したい場合は漁師が船頭となり乗せてもらう形になる。漁船を数隻所有してビジネスを行っている者もいるが最大でも4艘ほどで大規模な船元はいない。

朝7時：漁師が海から戻り、セリが始まる。

- ・漁船が海岸に戻ってき始め、漁船が海岸付近に到着すると仲買人(ホテルなどに魚を卸す人・籠に入れて魚を売り歩く人・道端で惣菜などを売っているママなど)が船の近くに殺到する。そしてその場でセリが開始される。
- ・それと同時進行で取れた魚を砂浜に並べセリの場所が船上から砂浜へと移る。これと同じような形のセリが帰ってきた漁船ごとに行われる。

BMU委員会メンバーの売り上げ金額チェック！

- ・セリが行われている間、BMUの委員会メンバーがそれぞれのセリに入り、税金徴収のための売上金額のチェックや統計データで使用するための情報の収集を行う。これらのデータが水産担当官へ渡され、水産庁へ提出する。  
※BMUは各水揚げ場付近の住民で構成されている組合で、漁業に携わる者でなくとも近隣在住者であれば加入することができる。



水揚げを待つ仲買人

#### ◆平均的な漁師の収入

狙う魚・時期にもよるが約11,000円/月である。魚の卸値は小魚1,650円から2,750円/バケツ一杯23kg、キングフィッシュが385円から1,925円/尾、鯛(小型)550円/kg、サバ330円/kgとなっている。稀にホテルなどの顧客を持っている漁師もいるが、基本的にはほぼすべて市場での卸売となる。

#### ◆漁師の話

魚がいる場所は分かるんだ、でも風頼りため、ポイントに着いた時には魚は移動してしまっている。何としても中古の安いYAMAHAの船外機がほしい。もう少し質の良い網や針があればもっと魚が獲れるのに・・・

#### ◆今後の課題(水産担当官の話から)

- ・屋根のある市場の整備が必要 船上や砂浜で行うセリを管理するのに限界がある。
- ・ライセンスの登録・更新の徹底 水産担当官には強制する権限はなく、従わない漁師は警察に通報するしかないが、小さな漁村では非常に困難である、そもそもライセンス制度ができる前からみな漁師だったので、納得させるための説明も難しい。しかし一方で、ルールに従い登録料とライセンス更新料を毎年払っている漁師もいるため、不公平が生じている。
- ・違法漁業対策 毒薬やダイナマイト、また細かい網目の蚊帳などを魚網として使用したりする。その監視のための予算不足で、政府が購入したバイクや船などはあるのだが燃料代がなくパトロールができていない。(2013年1月24日のThe Citizen紙で、ルクワ湖に面したモンバ県では、漁獲高が2005～10年平均107トンから、2011～12年平均37トンまで下落しており、その理由は違法漁業によるという報道があった。)